

Title	diskretナ賦値デ完全ナル体ノ上ノ多元体（特ニ惰性多元体ノ存在）Ⅱ.
Author(s)	中山, 正
Citation	全国紙上数学談話会. 100 p.1-p.5
Issue Date	1936-08-07
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/74376
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

451. diskret + 賦値デ完全ナ体ノ上ノ 多元体 (特= 惰性多元体ノ存在) II.

中山 正 (阪大)

証明ノ不完全ナ所= 氣ヅキソレヲナホスノ= 手聞ドツテ
シマヒ違レマシタガ前回ノ後ヲツヅケル。記号ハソノマツ、
即チ diskret + 賦値デ完全ナ体 K ノ核心= エツ多元体 D 、
且ツ $(D:K)=n^2$ 、 D/K ノ剰餘類階級 p 、分岐指數 e 、故
ニ $pe=n^2$ 、 D ノ剰餘類多元体ヲ \mathcal{O} 、 K ノソレヲ \mathcal{K} トシ、
 \mathcal{O} ノ核心ヲ \mathcal{P} トスル。

惰性多元体トハ D ノ部分多元体 T デ、 T/K ハ不分
岐、且ツ \mathcal{O} ノ元ハ T デミナ代表サレル如キモノデアイル。
前述ノ如ク D ノ部分多元体 $R (\supseteq K) =$ 於イテ、ソノ
Max-ord. ハ D ノソレ \mathcal{O} ト R ノ *Durchschnitt*、
素いで \mathcal{P} 同 = ヲイテモ同様、而シテニツ $R_1 \supset R_2$ ノ間= 於テ
分岐指數等ヲ云々シ得ル、ソノ言葉ヲツカヘバ、 D ハ T = 對
シテ *voll-verzweigt*。

カ、ル T ハ后述ノ如ク一意的= ハキマラスガ、互= 同
型= ナル。

所謂 \mathcal{P} 進數体ノトキ= ハ特殊ナ事情ノタメ前記(II)=
相當スル考察デ T ノ存在ガ証明サレルノダガ、一般ノ場合
ヲ以下= 述べタイ。

\mathcal{K} ハヤハリ *vollkommen* トスル (使フノハ \mathcal{P}/\mathcal{K}
ガ第一種ナルコトノミ)

(V) n が素数中 l^s ナラバ、 μ シカ = 特性多元体ハ存在。

先ヅ (II) = ヨツテ、ソノ存在ノワカッタ不分岐最大部分体ノ一ツヲ W トスル、ソノ剰餘体 μ ハ \mathcal{F} ヲフクム。(含マナイトスレバ μ \mathcal{F} ナル体ガ $\tilde{\mathcal{Q}}$ = 對シ n ヨリ高次 = ナリ (III) = 矛盾)、然ラバ容易 = ワカル如ク W ハ丁度 \mathcal{F} ヲ剰餘体 = モツマウナ部分体 Z ヲ有ス。 $(Z:K) = (\mathcal{F}:\tilde{\mathcal{Q}})$ 、コノ Z ノ元ト可換ナ元全体ナル多元体ヲ T トスレバ、コノ T ガモトムル $T = \mu$ 、階數ヲ考ヘレバワカル如ク、ソレ = ハ T/K ガ不分岐ナルコトヲ云ヘバヨイ。

$$e = (Z:K) = l^t$$

トオク。(IV) 参照)

証明. 1) Z ヲフクム K ノ最小ガ有る擴大 L ガ l ノ中ノ次數ナル時、 $(\mathcal{F}/\tilde{\mathcal{Q}})$ ガ第一種ナコトカラ Z/K 、 L/K ガ第一種ナルコトガワカル。 L/K ノ有る群ヲ \mathcal{G} 、ソノ位數ヲ l^x 、 $Z =$ 對應スル部分群ヲ \mathcal{G}_1 トスル、シカラバ p 群ノ理論デヨク知ラレテキルマウ = $\mathcal{G} = \mu \mathcal{G}_1$ ヲフクミ、位數 l^{x-1} ナル部分群 \mathcal{H}_1 ガアリ (例ヘバ園氏群論 128 頁系 2 ヲ反復)、 \mathcal{H}_1 ハ不変部分群デアアル (同系 1)、 $\mathcal{H}_1 =$ 對スル体ヲ H トスル、 H/K ハ l 次巡回擴大。

H ノ元ト可換ナ元全体 $\nabla(H)$ ヲ考ヘル、コレノ $K =$ 對スル分岐指數ガ $e/l = l^{t-1}$ ナルコトヲ証明スル。

剰餘類階數ハ高ミ γ ダカラ分岐指數ハ少クモ e/l 、ヨツテ e デナイコトヲ云ヘバヨイ、假 = e ダトスル、然ラバ

$\nabla(H)$ 中、 D の素いである、Primelement π が存在スル。

他方 = 於テ H/K 、($H \cap \mathbb{Z}$ 、部分体ナリ!) アル同型置換 ($\neq 1$) σ トスレバ H/K が不分岐カラ容易 =

$$\lambda^{\sigma} \neq \lambda \pmod{\mathfrak{p}}, \text{ 即テ } \pmod{\pi}$$

ナル $\lambda \in H$ ガアル、シカル = σ ナル置換ハヨク知ラレテキル様 = D ノアル元 = ヨリ変換ヲオコサレル、例ヘバ $\xi = \text{ヨリ変換トスル}$ 。

$\xi = \xi_0 \pi^a$ (ξ_0 が Einheit) トスレバ、 π が H ノ元ト可換ナノダカラ ξ ノ逆リ = ξ_0^{-1} ヲ用ヒラレル、ヨツテ ξ ハハシメカラ Einheit トスル、故 =

$$\lambda^{\sigma} = \xi^{-1} \lambda \xi \neq \lambda \pmod{\pi}$$

カラ $\lambda \xi \neq \xi \lambda \pmod{\pi}$ ガ出ル、然レ = 之レハ $\lambda \in \mathbb{Z}$ 、故 = ソノ剰餘類ガ \mathbb{Z} ノ核心 $\mathfrak{p} = \text{属スルコト} = \text{矛盾}$ 。

ヨツテ $\nabla(H)/K$ 、分岐指数 e/l 、故 = $\nabla(H)/H$ 、分岐指数 e/l 、剰餘類階数ガ γ/l 、ヨツテソノ剰餘多元体ハ \mathbb{Q} ト一致スル。

$\nabla(H) \supseteq \mathbb{Z}$ デアリ、 $\nabla(H)$ デ \mathbb{Z} ノ元ト可換ナ元ハマハリ下デアル。 $\nabla(H)/H$ 、階数ハ D/K ノヨリ小、故 = 階数 = ヨリ帰納法 = ヨツテ我々ノ主張 = 到達出來ル、(\mathbb{Z}/H ノがろあ体ハ勿論 $L = \mathbb{Q}$ マレル!)

証明. 2) 一般ノ場合. \mathbb{Z}/K ノがろあ体 L 、ソノがろあ群 $\ell\mathfrak{f}$, $\ell\mathfrak{f}$ 、 L -しろう群ノ一ツヲ $\ell\mathfrak{f}'$ トスル、 $\ell\mathfrak{f}' = \text{對應スル体ヲ } K' \text{ トスル、不分岐拡大 } K'/K \text{ ノ次数ハ } \ell \text{ ト素}$

デアル。

故 $= D_{K'}$ ハヤハリ 多元体!!! 且ッ D ノ素いでヤルノ
Primelement が $D_{K'}$ デモソウ、 $D_{K'}$ ノ剰餘類多元体が
 $\mathcal{O} \times \mathcal{K}'$ (\mathcal{K} = 關スル直積) ナルコトが容易 = ワカル。
 $\mathcal{O} \times \mathcal{K}'$ ノ核心ハ $\mathcal{I} \times \mathcal{K}'$ 、ソレハ K' ノ上ノ不分岐拡大
 $\mathbb{Z} \times K'$ ノ剰餘体デアル、 $\mathbb{Z} \times K' = \mathbb{Z}K'$ (\mathbb{Z} ノ部分体トシ
 テノ合成) ヲフクム最小ノ $K' =$ 對スルガろあ拡大ハ $L =$ フ
 クマレ、ソノ $K' =$ 對スル次数ハ l ノ巾デアル、故 = 1) ノ
 場合 = ヨリ、 $\mathbb{Z}K'$ ノ元ト可換ナ $D_{K'}$ ノ元全体 $T' \wedge K' =$
 對シ不分岐、シカル $= T' = T \times K'$ デカラ T/K が不分岐
 ナルコトが証明サレル。

(VI) n が素数巾デナイ一般ノトキノ証明

$$n = l_1^{s_1} l_2^{s_2} \cdots l_u^{s_u}$$

トスル、ソレ = 對應シテ $D = D_1 \times \cdots \times D_u$ (但シ
 $(D_i : K) = l_i^{2s_i}$) トスル (ぶらうあー)。

(V) = ヨリ存在ノ知レタ D_i/K ノ情性多元体ノ一ツヲ T_i
 トスル。 $T_1 \times \cdots \times T_u$ (K = 關スル直積) が D ノ情性多
 元体 = ナル。ソノタメ D_i/K ノ剰餘類階數ソノ他 = i ツ
 テ表ハス。 $r_i e_i = l_i^{2s_i}$ 。然ラバ $e = \prod e_i$, $r = \prod r_i$
 デアル、何トナラバ π_i ハ $e_i =$ 乘ジテ \wp_K ト *Einheit* ノ
 積 = ナルノダカラ D/K ノ岐指數 e ハ e_i デワレル、故 =
 $\prod e_i$ デワレル、而シテ π_i ハ D ノ素いでヤルデワレル、ガ
 カラ $\mathcal{O} = \mathcal{H}$

$$\mathcal{O}_1 \times \cdots \times \mathcal{O}_u$$

ト準同型ノ環ガフクマレル、シカ $\mathcal{V} = \mathcal{O}_1 \times \cdots \times \mathcal{O}_u$ ハ多元体、故ニ準同型ハ實ニ同型、故ニ $\gamma = (\mathcal{O} : \mathcal{V}) \geq \prod r_i$ 。
 上述トク \mathcal{V} ノ階数ヲ考ヘレバ $\mathcal{O} = \pi e_i$ 、 $\gamma = \prod r_i$ ガワカル、
 且ツ $\mathcal{O} = \mathcal{O}_1 \times \cdots \times \mathcal{O}_u$ 。

而シテコレハ $\mathcal{T}_1 \times \cdots \times \mathcal{T}_u$ ノ剰餘類体デアリ、
 $\mathcal{T}_1 \times \cdots \times \mathcal{T}_u$ ハ K ニ對シテ不分歧 (階数ヲ考ヘル)、故
 ニコレガ情性多元体ニナル。

昭和十一年度 1 月— 6 月分、會費金貳円也
ヲ 至急御拂込ミ下サイ。

大阪市北区

大阪帝國大學
理學部數學教室

清水辰次郎

振替口座番號

大阪 一七七四三番

前期會計決算ハ第 84 号ニ報告シテアリマス